



千葉労働界

当週この怒りの声を聞け

貨物低額への怒りに職場で

超新小岩

■Aさん
貨物会社の低い新賃金には怒りを感じた。他の会社を見ての回答で、低いところにあわせるなんてひどい。合理化でもっと働け、給料は抑えるやうで、働く者のことを考えろ！

■Bさん
分割・民営化の破綻がたったの七年ではつきりした。そのつけを労働者に転嫁している。とりわけ貨物の労働者については賃金・期末手当格差という形で押しつけてきている。このことは、絶対に許

つたということに職場の仲間がく然としたと同時に怒りが沸騰点に達している。せめて四国会社(三、二五%)並みに昇給があったなら、職場の怒りもまだ抑えようがあったと思う。

佐倉

■Fさん

今回の二、九八%の回答は全く不満である。われわれ貨物会社の労働者は、一昨年の年末手当以来、ベ・アにして、その他の手当てにして、旅客会社、とくに本州三社とは大幅な格差をつけられてきた。

特に不満なのは、今回の回答が三島会社より全く低いということだ。われわれは、三島会社のように、「経営安定基金」の対象ともなっていない。それに、三%を割

すことは出来ない。今後、一〇年・二〇年と続くならば大変な事となる。歯止めをかけるためには、日貨労や鉄産労を解体するしかない。

■Cさん

九四年春闘もまた格差をつけられ超低額回答になってしまった。黒字の時も赤字の時も低額回答になるのは納得がいかない。

無駄な機関車を造ったり、それにとまなう設備の新設をするぐらいなら一般社員の生活向上を考えたい。

今秋のダイ改、来年の春闘など会社側の好き勝手を許さず組合員が一致団結して闘いぬかなければならない。

■Dさん

我々は貨物格差・超低額回答に断固反対し、一波一波のストライキに決起した。

しかしJR貨物は「不況ブーム?」にのって今にも増した合理化・動乗勤改悪を狙っている。これ以上労働強化されたら六〇歳まで働ける労働条件を確立するどころか六〇歳が労働者の寿命になってしまふ。断固阻止!

■Eさん

ベースアップの格差回答はもつてのほかである。

本年秋に行なわようとしている大合理化攻撃に断固反対である。人を増やさないで休憩時間を少し長くしただけの時短はまやかしてある。在宅休業時間が増えて始めて時短だと実感できるようにする

そもそも貨物会社がこんなことになることは、分割・民営化の時点で解っていたはずである。こんな異常な会社を作った連中にこの間の格差賃金に対する責任を取ってもらいたい。

ましてや、経営の問題はわれわれには全く責任がないのである。一般組合員の中には、「今回の回答は全く不満であり、第二波ストくらの戦術では怒りはおさまりきれない。」との意見もある。ぜひ全組合員に貨物の組合員の怒りも理解してほしい。

これからますます合理化が襲いかかってくる。基地統廃合・動乗勤改悪に対し、断固闘っていく。

べきだ！
五五歳到達時の出向は実質的な首切りにつながる。賃金も安くなり生活に不安を感じ安心して仕事は出来ない。

館山支部家族会報告

四月三日、館山支部家族会は、総会を開催した。今回の総会会場は、ご好意により、組合員宅を貸りして頂ての開催となった。

総会には、本部佐藤会長も出席し、「地域でのみなさんの活動に感謝します。本部家族会もみなさんに負けないよう頑張ります。」とのあいさつを受けた。

また、笹生支部長は、「この間支部としても家族ぐるみの闘いを追求してきた。今後も家族会の強化に向けて奮闘したい。また、本部家族会の取り組みや四月九日の結成一五周年行事にぜひ、参加してほしい。」との要請を行なった。

その後、総会は親睦を兼ねて屋敷会を行ない、さっそく四・九の参加者を選ぶとともに今年度の役員を選出し、和気あいあいのうちに終了した。

